昭和甲府
紫映通信
第29号
発行
山梨県立
甲府昭和高等学校
ＰＴＡ事務局
印刷 (有)平和プリント社

第28回 卒業証書授与式

本日３月１日、多数の来賓のご臨席のもと、卒業証書授与式が挙行されます。山梨県立甲府昭和高等学校第 28 期生、273 名が学び舎を旅立ちます。これで創立以来の卒業生は 9,120 名を数えます。

新卒業生の活躍と輝かしい未来に対し、心からの祝意を表します。

節目の年

校長　阿部邦彦

第二十八期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

平成二十五年度は甲府昭和高校にとって創立三十周年の節目の年でした。周年行事を盛大に行うことができましたが、丸山会長をはじめとするＰＴＡの皆様、また、同窓会の皆様には物心両面にわたるご支援をいただきました。心からお礼申し上げます。

本校は昭和五十九年、甲府学区総合選抜の一校として、「自主創造」を校訓に掲げ、その歩みを踏み出しました。「自主」とは自分で考え、自分で判断し、自分の意志と努力で自分の行動に責任を持って生きていくこと、「創造」とは新しいものを創りだしていく精神、自己の良いところを発見し、理解を深め、自己実現に努めて自らを創造することと定義し、自主創造の人の育成をミッションとして教育活動を展開し、着実な成果をあげてきました。

今回、三十周年事業に携わる中で多くの方にお話を伺ったり様々な過去の資料を目にしたりしましたが、甲府昭和高校に関わる皆様の本校への熱い思いを感じると同時に学校を中心とした強い絆で結ばれていることを痛感しました。この絆は本校の財産であり、これからも一層強固なものにしていきたいと思いました。

とはいえいつまでも三十周年といっているわけにはいきません。今日新しい一歩を踏み出す卒業生と同じように甲府昭和高校もこれまでの歴史を踏まえて新しいステージを構築していきたいと考えています。

さて、日本ＩＢＭ相談役の北城恪太郎氏はこれからの若者に求められる資質として「高潔さ」をあげています。

「高潔さ」とは「人が見ていないところでも、正しいことができる」ことと北城氏は定義づけていますが、私は、この「高潔さ」は「自主創造」を支える重要な要素だと思います。

今日、学び舎を巣立つ皆さんには甲府昭和高校の卒業生として高潔な精神をもって自主創造を心がけ後輩のよきモデルとなって未来を創造していくことを期待します。

皆さんの門出にあたって高浜虚子のこの一句。

春風や
闘志抱きて
丘に立つ

前進

ＰＴＡ会長　丸山　剛

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ご指導いただきました校長先生をはじめとする先生方には心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さんは四月から就職する人、進学する人など様々な道へ進まれることと思います。その道は、第一志望の職業や大学だった人もいれば、そうでなかった人もいらっしゃると思います。

これから生きていくうえで思い通りにならないこと、一生懸命やってもうまくいかないこと、夢に向かって頑張っても叶わないことなど数多くの壁にぶつかるでしょう。しかし、その時は立ち止まらず無駄な時間を過ごさないようにしましょう。真正面から向き合えば、必ず何か得るものがあるはずです。何もしなければ前には進みません。恐れずに飛び込んでください。今いるところで何ができるのかを常に考えてください。

Ｆ１ドライバーのアイルトン・セナの言葉の中に印象に残っているものがあります。

『人生とは山の頂上に向かって自転車のペダルを踏み続けることである。少しでも休めば、自転車はスリップ・バックしてしまう。だからペダルはこぎ続けなければならない。努力はし続けなければならない』

今の自分を保つためだけでも努力が必要であり、更に上を目指すためにはもっと努力をしなければならないということです。

彼は「天才」、「史上最高のＦ１ドライバー」などと評されていますが、その彼の根底にあったのは、やはり努力だったのです。努力は「やり過ぎる」ということはありません。私も、自分自身の人間としての幅を広げるため、様々な方法で努力を続けています。

そのひとつが、人との出会いを大切にするということです。できるだけ多くの人に出会う機会を持ち、多くの考え方に触れることにより、今までにない発見や知識を得ることができることでしょう。

みなさんもぜひ、これからの出会い一つ一つを大切にしてください。その出会いがそこからの人生に必ずプラスとなり、自分を大きくしてくれます。

最後に、私は毎年母校で行われる職業理解のための講演に行っています。様々な形はあると思いますが、同じ学び舎で過ごした後輩のためにできることはしてあげてください。そのつながりが「出会い」であり、これからの甲府昭和高等学校を支える「伝統」となっていくことでしょう。

卒業生に贈る言葉

考え続けること

PTA副会長（三学年部会委員長）
土橋みえ

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には、心よりお祝い申し上げます。

今は、四月からの生活への期待と不安が交差しているところでしょうか。これからは、家や学校からの干渉も少なくなり、かなり自由を感じる生活になるでしょう。私も一人の生活を始めた当初、帰宅時間や日常の過ごし方などを誰にも干渉されない生活に開放感を味わったことを思い出します。しかし一見、自由な生活は魅力に満ちていますが、社会生活には好き勝手にできないことが多く、自分で決めなければならないことが多いのも確かです。それは、自分で決められる嬉しさもありますが、悩ましいことでもあり、責任を伴うことでもあります。

何かを決断しなければならないとき、人はやみくもに適当に決めることはありません。そのことについて考えます。ただ、どうすればいいのかと思い悩むのではなく、それがどういうことなのかと考えることが重要です。その時、自分だけに正しいことではなく、誰にとっても正しいことを考えることが大切です。そうでなければ、自分勝手な考えになってしまいます。誰にとっても正しいこと。ものごとの本当を知るには、一人で考えるだけではなく、人の話を聞く、ものごとの成り立ちを知る、いろいろな角度から考えることが必要です。それに自分の考えは、誰かが代わって考えてくれるものではなく、自分で考えるから自分の考えとなるのです。独りよがりではなく、ものごとの本当を知ることは、簡単なようでとても難しいものです。また、大多数の意見が正しいとは限りませんし、逆に少数の意見が正しいとも限りません。クリック一つで大量の情報が得られる時代、世間的に何か気にいらないことを言えば、あらゆる人たちから矢のように言われ続け炎上する時代、だからこそ、ものごとの本当を考え、知ることの大切さがあります。そして、そうやってあなたが自分で考えたことや、考えてきた過程があなたのブレることのない軸となって、ものごとの判断やその先の生きる姿勢に役に立つと思っています。

タイムカプセルを開く二十年後、手紙を手にしながら、それまでの人生を振りかえるとき、いろいろあって大変だったけど頑張ってきたとお互い笑いあえるような人生が送れるよう切に願っています。

人として切り拓く未来

PTA副会長（二学年部会委員長）
小林淳

三年生の皆さん、ご家族の皆様ご卒業おめでとうございます。これからは皆さんの選んだ道をそれぞれに歩んでゆくことでしょう。それは決して平坦な道ではないと思いますが、自分の夢に向かって一歩づつしっかりと歩いて行って下さい。

皆さんの卒業に当たって以前人気を博した某学園ドラマの中であの有名な某先生が卒業生に贈った言葉を紹介したいと思います。それは「かきくけこ」のそれぞれの語尾に「い」という文字をつけてみて下さいというものでした。「か」がかい＝甲斐、やり甲斐、生き甲斐のある人生を見つけて下さい。「き」はきい＝奇異、人から見て奇妙だと思われるような独創的な事にチャレンジして下さい。「く」はくい＝悔い、悔いを残しなさいという事でした。悔いが残れば次は失敗をしないようにレベルアップをした挑戦ができるでしょう。「け」はけい＝敬、常に周りの人に尊敬の念を忘れないようにして下さい。最後に「こ」はこい＝恋、たくさん素敵な恋をして大切な人を見つけて下さい。という言葉でした。すべて素晴らしい言葉ですが、私は特に「かい」と「けい」が大切だと思います。皆さんの人生は皆さん一人一人のものです。本当に自分は何になりたいのか、どんな人生を歩きたいのかよく考えて、やり甲斐、生き甲斐のある道を選んで欲しいと思います。

そして、皆さん一生懸命に頑張って日々を過ごしていると思いますが、一人では生きていけません。必ず誰かの助けがあります。家族や先生方、友人など多くの人たちの支えがあって今があります。支えてくれているすべての人たちを尊敬しましょう。そして感謝しましょう。こうして今まで生きてきたし、これからも生きていくのだと思います。

皆さんが飛び込んでいく現代社会は様々な困難を抱いています。でも、一人の勇気と力ある人として向かっていけば必ず道は開けると信じて下さい。そしてこの甲府昭和高校での想い出を力にして明るい未来を切り拓いていって下さい。

皆さんの未来が夢や希望で満ち溢れるものである事をお祈りしてお祝いの言葉とさせていただきます。

卒業にむけて

PTA副会長（一学年部会委員長）
鈴木秀雄

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆さんは今日をもって甲府昭和高校という学び舎を飛び出し、それぞれの新しい道を歩んで行くことになります。

世の中では選挙権を十八歳に引き下げようと言う動きが出ています。国際的にも十八歳を成人としている国は、八割以上あると言われています。今でも自動車運転免許の取得や十八歳未満入場禁止施設の入場が可能ですし、親の承諾が要りますが、結婚やクレジットカードを持つ事も可能になっています。世間からは大人の入口世代とみなされる年齢なのです。それは同時に自身の行動に責任を持たなければならないと言う事なのです。車は非常に便利で楽しい乗り物です。しかし、ルールを無視したり自分勝手な運転をすれば即事故に繋がります。その責任は自分が負うと言う事です。「早くしなさい」「課題は終わったの？」など保護者から発せられる言葉につい「うるせーなー」「わかってるから」と口に出したこともあるでしょう。これから始まる新たな生活に、期待と共に少しの解放感を持っているかもしれません。しかし、解放された自由には、対になって自分で管理していく自己責任が付いてきます。野生動物の世界では厳しい親離れがあります。親が子供を噛んだり突然いなくなったりして、天敵や危険が待ち受ける環境をあえて強要するのです。それはもう一人で生きていけると親が判断したからなのでしょう。また一人で生きていかなければならない時期に達したと判断したからなのでしょう。皆さんは、まさに今そのステージに登ろうとしているのです。

「自主創造」を掲げる高校生活の中、授業、部活動、クラス活動などを通し、規律・体力・感性・対人力などの基礎固めをしてきたと思います。素晴らしい恩師や仲間もたくさんできたことでしょう。これらは皆さんの財産であり、羅針盤となって進む道を示してくれると思います。貴重な三年間で得たたくさんの宝物に自信を持ち、まだ見ぬ未来に向かって、大人の階段を登って行っていただきたいと思います。

夢と希望を持ってご活躍されることを、心からお祈り申し上げます。

ＰＴＡ各専門委員会より

今、新たなスタート地点に立ったあなたたちへ

進路指導部専門委員長　柳井伸介

甲府昭和高校第二十八期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

甲府昭和高校に学んだこの貴重な三年間の経験が、皆さんがこれから踏み出す長い長い人生の大きな第一歩となることを、心より願っています。

また、ご父兄の皆さん、お子様のご卒業誠におめでとうございます。ほっと一息つくと同時に、これからの進学や就職に対して期待と不安の入り混じった心境なのではないかと思います。同じ父兄の一人として、さらに気持ちを引き締めなくてはいけないと感じています。

卒業生の皆さん、未来は、果てしなく広大な宇宙のように無限の可能性を秘めて、あなたたちの目の前に広がっています。

進学する方も就職する方も、ずっとそのことを心の中に密かに持ち続けながら、さまざまなことにチャレンジしていってください。いつも挑戦する気持ちを持ち続けていけば、たとえ一〇〇％達成できなかったとしても、その過程でさらに多くのことを学んでいくことができると思います。

もちろん、すべての人間が夢や挑戦を実現できるわけではありません。私達のような親の世代は、そのことを十分に理解しています。

しかしながら、若いあなたたち卒業生は、これからその可能性に向かって走り始めるスタート地点に立ったばかりなのです。そう、まだスタートさえしていないのですから。

ゴールは、あなたたちが想像さえできない遠い遠い先にあります。途中で挫折を感じたり、前に進むことがつらいと思うような時もあるかも知れません。そんな時でも、負けずに頑張ってください。

家族のみんなも先生方や先輩方も、あなたをいつも見守り応援してくれています。たとえ口には出さなくても、あなたがたが無事ゴール地点に立つことを心から願っているのです。苦しいことがあったら、遠慮せずに誰かに相談してみてください。きっとまた次の新しい一歩を踏み出せます。

いつの日にか、あなたがた卒業生が親になり、その子どもたちが同じようにスタート地点に立った時、きっと子どもたちに対して同じ気持ちでエールを送るはずです。

最後に、三年間子どもたちを暖かく励まし見守っていただいた先生方に、父兄一同心から感謝しておりますことを記させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

卒業にあたって

生徒指導部専門委員長　清水真知子

第二十八期生として甲府昭和高校を卒業する皆様、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

生徒指導部専門委員会では五月～十一月の間、正門前他三ヶ所で、警察の方、先生方、生徒指導委員の方々の協力のもと通学指導を実施しました。婦警さんの「しっかり止まりなさい。」の声が大きく響きます。正門から正面も左右も一時停止の標識がありますが、見通しが良いためかどちら側もしっかり止まらず通ってしまいます。いつ事故が起きてもおかしくない状況です。自転車のルールも厳しくなった昨今、被害者にも加害者にもならないよう、各ご家庭でも自転車の通行の仕方に関し、再確認してみてはいかがでしょうか。通学指導に参加し、生徒達は先生方や関係者の方々に守られ生活しているのだと実感し、感謝した朝でした。

さて、三年生においては、この三月で卒業となります。勉強を頑張った方、部活動に励んだ方、学校行事に打ち込んだ方、それぞれがそれぞれの思いで走り抜けた三年間、うれしい思い、悲しい思い、悔しい思い、たくさん経験したのではないでしょうか。四月から進学、就職と進む道は違っても、大人になる第一歩を踏み出すことにかわりはありません。自由が広がる反面、責任も大きくなります。様々な困難や悩みにぶつかる事も多いでしょう。そんな時も、この昭和高校で教えていただいた事、経験してきた事が、困難や悩みを乗り越える知恵や行動力の源になると、信じています。高校を卒業したから勉強が終わりではないのです。専門学校、大学を卒業したから学びが終わりではなく、机に向かうだけが勉強でもないのです。どうか志を高く持ち、感謝の気持ちを忘れずに、これからの人生を邁進してください。そして、二十八期生として出逢った偶然を大切にしてください。

最後になりましたが、深く関りご指導いただいた先生方、子供達に携わっていただいた全ての方々に、心より、お礼申し上げます。また卒業後も人生の先輩として良きアドバイスをいただけたら、子供達も心強いことと思います。

先生方、保護者の皆様、卒業生の皆様のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

人との出会い「一期一会」

保健体育専門部委員長　豊岡坑一

第二十八期卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様には、無事に卒業の日を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

保健体育専門部として、毎年ご協力をお願いしております、強歩大会におきましては、今年度、台風の影響により短縮日程となり、当日に教職員の皆様だけでの運営をお願いすることになり、教職員の皆様には、コース変更・時間変更など、大変だったと思いますが、無事開催されたことに、感謝致しております。また、事前に予定して頂いた保護者の皆様にも、お礼を申し上げます。

卒業生の皆さんは、この三年間で勉強や部活動に取り組み、そして紫映祭・研修旅行などの行事で、クラスメート・先生・先輩・後輩など、いろいろな人との思い出がたくさん出来たのではないでしょうか。楽しかった事、つらかった事、いろいろな事があり、一生忘れることのない大切な思い出になったと思います。そして、今日からはそれぞれの新しい道へと進みますが、そこでも新しい人との出会いがたくさんあると思います。人との出会いで「一期一会」という言葉を聞いたことがあると思いますが、その語源は、「その日の茶会での出会いは一生に一度しかないのだから、それを大切にして誠実な心で人と接するべきである。」といった茶道の心得から出た言葉です。これから皆さんが出会う人と一緒にいられるその時、相手を思いやり、大切に過ごすようにして下さい。そして、その人との繋がりを大事にしていって下さい。

教職員の皆様には、子供たちを暖かいお気持ちでご指導して頂き、ありがとうございました。この三年間で成長した子供たちの姿を見て、あらためて深く感謝申し上げます。

最後に甲府昭和高校の教職員の皆様、卒業生のご家族、そして卒業生の今後の活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

卒業に寄せて

教務

これからの学びの方向性

主任　初鹿野　仁

第二十八期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。学習活動と課外活動の両面で立派な成果を収めてきた学年という印象を持っています。卒業にあたりここでは、これから求められる学びの方向性についてお話しします。

今年度の一年生から新学習指導要領が完全実施となりましたが、今回の改訂の特徴のひとつに、「基礎的・基本的知識・技術の習得」とその「知識・技術を活用するための思考力、判断力、表現力の育成」のバランスということがあげられます。本校では、この改訂に伴い、既に昨年度からいくつかの取り組みを行っています。単元テストもそのひとつです。これには学んだ内容の理解・定着を短いスパンで確認し、その結果を復習や応用の指導につなげていくというねらいがあります。また、グループ学習や発表の形態をとり入れ、熟議、プレゼンテーションなどの言語活動を重視する背景には、友人との協働や身につけた知識・技術を活用するための場の提供というねらいがあります。これからは、あらかじめ設定された課題を決められた道筋に沿って解決していくのではなく、自ら課題を発見・設定し、必要に応じて周囲と協働しながら、様々な可能性を模索しつつ解決していく力が求められます。今回の学習指導要領の改訂は、この方向を踏まえてのものですが、そのための鍵は、言うまでもなく、身につけた知識を、別の場面で効果的に使う能力です。本校では「学んだ知識を別の文脈で活用する能力」を目指すべき学力と定義し、前述のように学校全体でその育成に取り組んでいます。この学力の方向性は、みなさんの今後において必ず大きな意味を持ってくると思います。本校で培ったこれからの学びの方向性を大切に、これからも学び続けてくれることを願っています。

教養

一年を振り返って

主任　入倉　ますみ

三年生の皆さん、保護者の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

教養係の主な仕事は図書館の運営です。三年生の皆さんは、三年間でどのくらい図書館に足を運んだでしょうか。図書館では、生徒や先生方への図書の貸出・返却、購入図書の選定、図書館を利用した授業のサポートなどを行っています。また、一人でも多くの生徒に、図書館を利用してもらえるよう、月一回発行の「図書館つうしん」で図書委員のお薦め本や新着図書の紹介をしたり、近年増えている受験で小論文が必要な生徒のために小論文コーナーを設けたりしています。さらに、図書委員会では、生徒や先生方から不要になった本を提供してもらい、毎年秋にブックフェアを開催しています。今年度は昼休みと放課後の二部制で行いましたが、どちらも多くの生徒でにぎわい、盛況のうちに終わることができました。高校生の不読率（調査期間の一ヶ月に一冊も本を読まない生徒の割合）が五十%を超え、読書離れが進んでいる中で、こうした行事をきっかけに図書館を身近な存在と感じ、読書の習慣が身についていく生徒が増えることを期待し、来年度以降も実施していきたいと考えています。

もう一つの仕事として、文化行事を通じて豊かな感性を養うことを目標に、教養公演を実施しています。演劇・音楽・講演をローテーションで行っていますが、今年度は、創立三十周年記念講演会と兼ねて実施しました。テレビでもおなじみの脳科学者、茂木健一郎氏を講師に迎え、「脳と個性～脳を活かす勉強法と進路選択～」というテーマで講演していただきました。生徒は冒頭から話に引きこまれ、とても印象に残る講演会となったようです。

こうした教養係の仕事が、豊かな教養や感性を身につけるために多少なりとも役立てば幸いです。

進路指導

新たな第一歩に祝福と期待を込めて

主任　池谷　佐知子

第二十八期生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今年度の入試を振り返ると、例年以上の厳しさが特徴的でした。「地元志向・安定志向・資格志向」に拍車がかかり、県内でも大学・短大・専門学校いずれも受検者の学力レベルと倍率が一層高まりました。少子化時代に優秀な学生を取るべく、推薦枠も縮小しています。確実な学力に加え「打たれ強さ」や「コミュニケーション力」も求められていますが、分野の違いに関わらず、いずれも自己の可能性を広げ専門を追求していくために不可欠な要素です。このような状況で二十八期生の皆さんもよく健闘しました。今までは先生方が手掛かりを与え、手を差し伸べてくれる中で「自分に合った道」を探してきました。その出発点に立った今からは、「自分が置かれた場所でどれだけ自己を開拓できるか」にかかっています。これからは、課題発見から情報収集、問題解決まで、自分が主体となって動かねばなりません。甲府昭和高校で三年間学んだ皆さんならそれができるはずです。一人ひとりが努力し、挑戦し、挫折を経験しながらそれを克服する力を蓄えてきたからです。

『三十周年記念誌』に現在各界で活躍されている先輩方が紹介されています。校訓「自主創造」の通りに生き県内随一の和菓子職人になった先輩、部活中心の高校時代を経て医師として活躍している先輩、深い思索を続ける詩人、海外で、また県内で教育をけん引する先生方、国防を担う海上保安官、山梨の安全を守る交通機動隊員、法の力で人を守る弁護士、才能を柔軟かつ大胆に活かす若き企業家―。皆、各人が有する本来の才能が、甲府昭和高校で「自主創造」のエネルギーを注入され大きく開花し結実したと言えます。そのいわば「甲府昭和DNA」は皆さんの中にもしっかり受け継がれています。「なりたい自分」と「創りたい未来」を目指し力を尽くしていってください。

最後になりましたが、第二十八期生の皆様が今後益々ご活躍され、十年後、二十年後、またさらにその先も、社会を担う人材となられていくことをお祈り申し上げます。

総務

一年間の活動報告

主任　千野　満広

今年度は、創立三十周年の年に当たり、PTA会長さん、副会長さんに、学校に来ていただいたりした機会（実行委員会等）が何回かありました。大変ご苦労様でした。特に丸山会長さんには記念式典でPTAを代表して祝辞を述べてもらったり、記念誌に挨拶の文章を書いてもらったりと、本当にありがとうございました。さて、今年度のPTA活動としては、周年行事以外では、進路専門部は六月に進路講演会を実施しました。保健体育専門部は十月に、強歩大会に備えての心肺蘇生法の講習会を実施しました。大会自体は、台風の影響で保護者のご協力を得ない形での実施になってしまいました。生徒指導専門部では、年間数回の登校時交通指導を行っていただきました。

PTA活動以外に、総務係は、購買、奨学金、広報活動等があります。購買部では、創立三十周年ということで、七月にパンとお弁当の割引セール（全品百円引き）を、十月には、文具の割引セール（ノート一冊三十円等）を行いました。どちらも大盛況のうちに終わることができました。奨学金では、経済状況を反映してか、奨学金希望者が年々増加しています。例えば、日本学生支援機構（JASO）の奨学金は、今年度は百名以上の希望者があり、三学年の生徒の約半数が希望したことになります。奨学金には、さまざまな種類がありますので、希望される方は、総務係までいつでもご連絡下さい。また、広報活動では、地元の昭和町との連携強化を図っています。昭和町広報では、押原中学校出身生徒を毎回登場させるようにしたり、今年度初めて、押原中学校の「出身者便り」を作ることも行いました。

年間活動報告と

生徒会

卒業生への言葉…

主任　熊谷　剛

ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。保護者の皆様にとっても、感慨ひとしおの事と拝察いたします。

未曾有の『東日本大震災』から、間もなく三年を迎えます。

二〇一一年（平成二十三年）三月十一日（金曜日）午後二時四十六分、今まで経験した事の無い大きな揺れと例えようの無い不安に包まれた事を、今でもはっきりと覚えています。私たちの創造をはるかに超える衝撃的な映像がテレビを通して流れました。時間の経過と共に、東北地域のその甚大な被害状況も明らかになり始めました。

私たちに何ができるのだろう。私たちは何をしたら良いのだろう。と自問自答を繰り返す日々。私たち日本人は、多くの事を考えると共に学び得たと思います。

私には好きな言葉があります。それは、『自利利他』という言葉。仏教の観点では諸説有り、難しい解釈もあります。

辞書を引くと…『自利と利他…自らの仏道修行により得た功徳を自分が受け取るとともに、他のための仏法の利益をはかること。』とあります

これを私なりに簡単に考えると…『自利利他の自利とは何か？それは、自分の利益のこと。』

『自利利他の利他とは何か？それは、他人に利益となるように図ること。そして、自分のことよりも他人の幸福を願うこと。』

利他を実践すればいつかは自分の利益になるのでは無く、「利他の実践がそのまま自分の幸せなのだ」という考え方です。つまり、「人に良いことをする利他の行動自体が幸福である。」自利利他とは、そう思っても良いと考えています。

卒業生諸君の甲府昭和高校での日々は、まさにこの『自利利他』の実践であったと思います。時には自身の事を後回しにしながら、考え、悩み、そして行動して、成長を遂げたのです。

高校卒業は、ゴールではありません。スタートです。新しいステージに立ち、若者らしく勇猛果敢にチャレンジして下さい。期待しています。

研究・研修

研究研修係の一年

主任　風間　久幸

三年生の皆さん、保護者の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今年度、研究研修係は、生徒の学力向上、教師の授業力向上、そしてキャリア教育の推進を柱に様々な活動を企画・実施して参りました。

本校では、放課後・休日に生徒が自主学習できる環境を提供しています。放課後の学習会場として、三年生には英語科教室を、一・二年生には視聴覚室を解放しています。今年度からは、三年生が休日にエアコンのある二階北選択教室で学習できるようにしました。休日にも登校し、学習会場で勉強している三年生の姿をよく見かけました。

また、質の高い授業を提供するため、教師の授業力や資質の向上をめざして教師相互の授業参観、全体研修会、各種校外研修会・セミナーの紹介などを行ってきました。さらに年二回授業アンケートを実施し、生徒の意見を直接授業の改善に生かすよう努めています。

昨今はキャリア教育の充実が求められていますが、本校では総合的な学習の時間をその中核と位置づけ、各学年と連携しながら計画的に取り組んでいます。自主開発教材の活用や「生きる力」を育むための教養講座」などに加え、今年度は特に〝熟議〟という形式での話し合いを全学年で実施しました。問題解決能力やコミュニケーション能力の育成をめざしたところ、稜線の浅いV字になった一番低いところがダイヤモンドのように輝いた。その後は眩しすぎて直視することはできなかった。日の出を見届けると六十人近くいた人たちがあっという間にいなくなった。私はしばらく、湯に浸かりリハビリをしながら、けがをした授業のことを思い出していた。

その授業は十九名で、五人一組の四チームをつくるのには、一人足りなかった。生徒達の前で「ゲームをやるときは『私』が入ること」を告げると大きな歓声があがった。私の力で授業はinspireしたとその時は思っていた。しかし、その後も〇年〇組のバスケットボールの授業では毎時間、生徒はinspireしている。けがが心配なくらいに。こんな授業がみなさんのこれからの生涯スポーツへと繋がることを願いすべての授業で実践できるように決意をした。最後に、「体」を動かすことは「心」を動かすことなので生涯にわたって楽しんでほしい。

試みですが、生徒が積極的に取り組む姿が印象的でした。特に三年生は年五回実施し、保護者の方々にも参加していただきました。さらにキャリア教育の一環として、押原小・中学校と小中高連携事業を継続的に展開しています。年三回の児童生徒合同会議で児童生徒の意見を集約し、前期は昭和町の全小中学校と協力してあいさつ運動を、後期は「昭和町クリーンキャンペーン」を行いました。押原中学校とは部活動交流も実施しています。

生徒により良い教育を提供するため、研究研修係では今後も効果的な取り組みを検討して参ります。〝学び〟は一生涯をかけて行われるものです。卒業生の皆さんがこれからも素晴らしい〝学び〟の機会に恵まれ、益々ご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

生徒指導

温泉と日の出とリハビリと決意

主任　今村　勇二

十二月〇日、朝、五時三十分、山梨市の高台にある温泉に向けて車を走らせていた。東の稜線がうっすら、明るくなり始めているが、町の夜景もまだ残っている。温泉に入るのは、日の出を観ることとリハビリが目的である。

十月二十四日、〇年〇組のバスケットボールの授業だった。基本であるパスを受けてレイアップシュートをしているとき、右手小指に違和感がはしったが、そのまま、指導を続けた。授業後、ズキズキとした痛みと腫れが出てきた。右手小指の骨折で、全治二ヶ月と診断された。（余談：長男には「労災」ではなく「老災」だと嫌みを言われた。）

六時過ぎに温泉に入る。すでに四十人近くが入浴していて、全員が東側を向いている。その方向は日の出の方向であり、町の夜景や富士山も見え、雲ひとつない快晴である。しかし、日の出までにはまだ、一時間はある。私も空いているベストと思われる場所をキープし、東を向き、明るくなりかけている稜線や富士山、また夜景を眺めながら、右手小指のリハビリをした。町の灯りもほとんど消え

保健・環境

この一年を振り返って

主任　矢野　由美子

三年生の皆さん、保護者の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保健室では、皆さんが、健康で健やかな学校生活が送れるようサポートしてきました。保健室は学校においてどんな役割を果たしているところか…よく利用した生徒はわかっていることかもしれませんが…少し紹介しておきます。まず第一に、皆さんの健康管理・維持・増進に関する仕事を行っています。さらに、皆さんが安全で衛生的な学校生活が送れるよういろいろと環境を整えることも行っています。また、毎月「ほけんだより」を発行し健康に関する情報も提供しています。と、ここまでは、ほぼどこの学校でも行っている仕事ですが…本校保健室の特筆すべき活動としてスクールカウンセリングが行われていることを述べておきたいと思います。

毎週一回、担当の中村友美先生に、生徒はもとより、保護者、担任、学年主任などが必要に応じてカウンセリングを受けています。このカウンセリングによって、学校生活におけるちょっとした悩みなど、先生に話を聞いてもらい的確なアドバイスをしていただくことで、今まで悩んでいたことが解決できたり、前向きに取り組むことができるようになったり、生き生きとした学校生活が送れるような元気をもらったりしていることは言うまでもありません。このようなストレスの多い現代社会には必要不可欠な活動だと思っています。

さて、皆さんは、これからは自身の健康は自身で守ることを実践していかなければなりません。健康な体は、一朝一夕にできるものではありません。睡眠・運動・食事など、毎日少し気をつけるだけでも健康は維持できるものです。こういった努力が十年後の健康をつくるのです。どうぞ、健康に留意して、ご活躍ください。

情報

一年間の活動報告

主任　三井　敏夫

情報係の仕事は、広報関係と視聴覚関係、情報機器関係に分けることが出来ます。広報分野の活動として、ホームページの制作及び更新、広報紙「甲府昭和TODAY」編集、学校紹介ビデオの作成などを行います。ホームページは甲府昭和高校の特色、学習や部活動、様々な行事の様子などを生徒、保護者、地域住民の方々、本校を志望している中学生などに発信しています。本校生徒の生き生きとした学校生活を個人情報の保護という制約の中で最大限に発信することを心がけてきました。また、県下の中学生に年三回届けられる「甲府昭和TODAY」の作成、夏休みに行われる学校説明会において上映される学校紹介ビデオの作成も行っています。さらに、学習や行事の様子を画像や動画として記録していくのも大切な仕事です。そしてこの画像や動画がホームページ、広報紙、ビデオなどの作成に利用されます。

次に、視聴覚分野の活動として、ワゴンプロジェクターなどの視聴覚機材やカメラ・ビデオなどの管理や録画、貸し出しなどを行っています。先生方が視聴覚機材や教材を使うとき、スムーズに授業ができるように準備をしています。

広報関係と視聴覚関係の活動は、情報機器を利用することが不可欠です。校内のコンピュータの管理が重要な仕事のひとつです。先生方のPCや校内サーバーの設定・管理・バックアップ、ネットワークの設定・管理、パソコン室の管理、トラブル処理などたくさんの仕事があります。学校がよりよい教育活動をおこなえるようにサポートするのが情報係の仕事です。

環境教育

一年を振り返って

主任　村松　親志

三年生の皆さん、保護者の皆様、卒業おめでとうございます。卒業後の進路は皆さんそれぞれで異なる訳ですが、甲府昭和高校第二十八期生の皆さんが新たな場所で大いに活躍される事を期待します。

環境教育係は、本校教育環境の質的な向上はもとより、生徒皆さんの教育活動に高い規範意識を結び付ける事で環境そのものの質的保全や改善を皆さん一人一人に定着させ、その実践を奨励する事を目的に設置されました。その狙い通りに行動出来ているかという判断は関係諸氏のご意見を待たねばならない所ですが、本校生徒皆さん方には環境保全の高い意識は確実に浸透しているものと確信しています。

係として環境美化運動の推進と意識の向上を掲げる中、毎日の清掃活動、月例大掃除、クリーンキャンペーン等提案し、皆さんの協力を頂く中で実践して来ました。紫映祭では県から水素自動車をお借りして、エコロジー意識の高揚をテーマに環境美化委員会としての展示も行いました。無理なお願いを快諾して下さった県及び関係者の方々には、改めてこの場を借りて御礼申し上げます。さらに十月には、一学年を対象にエネルギー教育の校外学習を実施、都内科学技術館で主に原子力発電について見学した後、東京都市大学、早稲田大学において、模擬講義も兼ねた形で、学習会を実施しました。エネルギー教育の実践はもちろんですが、平常時の大学を探訪するという経験は一学年の皆さんには、良い刺激となったのではないでしょうか。東日本大震災を教訓として、エネルギーに対してはより強い規範意識が求められています。環境教育係の提案する活動が皆さんの環境に対する意識向上のきっかけになれば幸いです。

私達の生活は様々な消費活動の上に成立しています。しかし資源は無尽蔵ではありません。環境維持には常にメンテナンス（の意識）が必要です。「脚下照顧」「凡事徹底」の気持ちでまずは足下から必要に応じた改善を施し、次第に大局的な環境保全へと意識を拡大して行きたいものです。甲府昭和高校で培った環境教育の実践を今後の人生の様々な場面や節目で是非活かして下さい。皆さんの、小さいかも知れないけれどしかし堅実な努力は、社会を変革していく原動力となるはずです。卒業生の皆さんの不断の努力と実践を強く祈念して挨拶を結びたいと思います。ご活躍下さい。

平成25年度 PTA年間事業

4月6日(土)	入学式・新入生保護者会
4月19日(金)	ＰＴＡ学年委員会（1・2・3年）
4月29日(月)	ＰＴＡ総会・学年部会・学級懇談会
5月16日(木)	高Ｐ連理事会（県立文学館）
5月24日(金)	高Ｐ連定期大会（石和スコレー）
6月11日(火)	ＰＴＡ専門委員会（進路部会） 保護者対象進路講演会
7月3日(水)～4日(木)	高Ｐ連関東（埼玉）大会 （土橋副会長・佐野教頭）
8月21日(水)～23日(金)	高Ｐ連全国（山口）大会 （丸山会長・阿部校長）
10月4日(金)	ＰＴＡ専門委員会（保健体育部会） 心肺蘇生法講習会
11月2日(土)	高Ｐ連研修大会（県立文学館）
11月22日(金)	創立30周年記念式典
2月12日(水)	高Ｐ連理事会（石和スコレー）
2月21日(金)	ＰＴＡ学年委員会（3年）
3月1日(土)	卒業式・3学年部会総会
3月17日(月)	ＰＴＡ学年委員会（1・2年）
年間	登校時交通指導（生徒指導部会）

学年報告

卒業に寄せて

三学年主任　小河内　照　仁

「遇うことで始まり、別れることで終わる。これは人の世の常である。」と言われます。三年前の入学式でたまたま巡り遇い、今日まで共に過ごしてきました。この偶然から皆さんは、多くのことを得たはずです。人は人との関わり合いの中で成長し、その成長の度合いは関わり合いの深さで決まると言ってもよいでしょう。初めての学年集会であすなろの木の話をしました。「結果がすべてではなく、むしろ、理想に向かってひたむきに努力し続けること、その過程で仲間と支え合いながら困難を乗り越えていくことが、皆さんの人生を支える貴重な経験となる。期間限定の高校三年間を大切に過ごして欲しい。」という内容でしたが、覚えているでしょうか。この三年間、部活動や紫映祭あるいは受験勉強といった様々な場面で、皆さんは苦しみながらもあきらめずに努力し続け、いくつものことを乗り越えてきました。そして、そこには一緒に悩んでくれた仲間が、励まし支えてくれた人たちがきっと居たはずです。

ここ数年でネットを介した新しいコミュニケーションが形成され、多くの人がメールやＬＩＮＥを利用しています。顔を見たことのない人と簡単に話すことができ利便性が増しました。しかし、そこは仮想の世界があり、嫌なことがあれば逃げられ、偽りの自分をつくれます。そんな偽った者同士のやり取りからは、本当の意味での人間関係は築けません。一方、現実の世界では、辛いことや困難なことが数多くあります。嫌なことから簡単に逃げられません。偽りもすぐに見破られてしまいます。皆さんも意見の食い違いや気持ちのずれから摩擦が生じ、相手に腹が立ったことや悪かったなという気持ちになった経験があると思います。そこには本当の自分が居て、相手との本気のぶつかり合いがありました。そして、その深い関わり合いを通して、より強い仲間との絆が作られたことでしょう。この強い絆を卒業後も、是非大切にして欲しいと願っています。

最後に、創立期から受け継がれているさわやか教育についてです。一年生の頃には厳しく指導された人もいましたが、徐々に注意も減り、三年次では、多くの人が自律心を持ち、自主的に実践していました。学校の良き伝統を自分たちの行動で後輩に伝えていきました。さわやか教育の実践は、社会に出てからも大切になります。甲府昭和高校の卒業生としての誇りを持ち、是非、継続していって下さい。創立五十周年ではさわやかな再会をしましょう。

一年を振り返って

二学年主任　丸　山　　淳

早いもので、高校生活の二年目が終わろうとしています。昨年と比べたら、当たり前のことが当たり前にできるようになったと思います。また、部活動でもチームの中心として、自己の技術向上はもちろん、チーム全体に気を配り、目標に向けて努力する姿が見受けられるようになりました。

今年度、二学年は重点目標を「豊かな人間性の育成」「基本的生活習慣の確立」「基礎学力の定着と進路目標の明確化」として取り組んできました。特に五分前登校、さわやかな挨拶、漢字検定・英語検定の取得については昨年度からの継続項目としてきました。生徒も積極的に取り組み、一定の成果が現れています。ご家庭でのご理解とご協力に感謝申し上げます。

紫映祭では、昨年度の反省を基に、みんなが積極的に取り組んだと思います。その結果、窓絵・合唱等どのクラスの作品も素晴らしく、今でも印象に残っています。また強歩大会は、台風の影響で実施が危ぶまれましたが、距離を十四㎞に短くして行われ、学年全員が完走できました。二学年の最大行事である沖縄への研修旅行では、事前学習において各グループがテーマを決め、それぞれが工夫を凝らした発表を行い、沖縄について多くのことを学び合いました。現地では戦争の傷跡を実際に見て、同世代のひめゆり学徒の人生を考え、平和の尊さを見つめ直す貴重な体験ができました。さらに沖縄の自然や文化に触れ、仲間との交流を通し、日常の生活では学ぶことのできない多くのことを学ぶ良い機会となりました。

学習面に関して大きな宿題が残ってしまいました。それは、家庭学習時間の量です。この一年も学年通信で公表してきましたが、平日の学習時間が平均で一時間程度です。学年の目標は二時間です。しかも来年度は受験生ですが、なかなか実感が湧かないみたいです。「いつやるの？」（答えは…二〇一三流行語大賞の一つですよ）受け身から脱却し、五年後・十年後の自分のために、何事にも今年度以上に積極的に取り組み、自分の可能性を広げていって欲しいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様にはこの一年間多大なるご理解とご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。来年度も引き続きよろしくお願いします。

終わりになりましたが、保護者の皆様には、この三年間、本校の教育活動に対して、多大なご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

この一年を振り返って

一学年主任　熊　王　和　彦

月日が経つのは早いもので、四月の入学式から一年が過ぎようとしています。当初は新しく始まる高校生活への期待と不安からか、少し緊張気味だった一年生の表情も、様々な行事に参加する中で次第に笑顔へと変わり、今では毎日友人たちと楽しそうに学校生活を送っているようです。

今年度、一学年では「豊かな人間性の育成」「基本的生活習慣の確立」「学習指導の充実と基礎学力の定着」を重点目標に掲げて取り組んできました。中でも高校生活のスタートにおいては基本的生活習慣が重要だと考え、朝の五分前登校をさらに徹底して、始業五分前にＨＲに入室することを目指してきました。この取り組みは生徒の意識も高く、成果が上がっていると感じています。ご家庭でも朝の送り出しにご配慮をいただき、感謝申し上げる次第です。学年独自の取り組みとしては、その時々の自分の頑張りや考えを後で振り返ることができるよう、ＨＲで朝ノートの作成を全員に課しました。この一年を総括するものを一つに絞るとしたら、それはこの朝ノートかもしれません。

七月に行われた紫映祭では、思い通りにいかずに苦労した面もありましたが、最終的には限られた時間の中で、クラス・団として結束し、素晴らしい成果を収めてくれました。自己の限界に挑んだ夏の学習会に夏期課外、東京の大学に出かけたエネルギー学習、文学館校外学習、教養講座と、一学年は行事が目白押しでしたが、そうした経験を通して、徐々に生徒は甲府昭和高校生の顔つきに変わっていったように思います。天候の関係で変則的な実施になった強歩大会にも臨機応変に対応できたところに成長の跡が窺え、頼もしさを感じました。さらに二月に行われたスキー教室では、各自が集団の一員としての自覚を持って行動することができ、二年次の研修旅行につながる手応えをつかんだところです。ただし成果の一方で反省点もあります。それは自主的な家庭学習の習慣が定着しなかった点です。学年では地に足つけた「一日二時間」という数字を生徒に提示してきましたが、結果的に通年で目標時間をキープできた生徒は少数派になってしまいました。短期決戦型の勉強スタイルから一刻も早く抜け出し、自分の夢の実現のために勉強に向かう姿勢を作り出して欲しいと切に願っています。そして来年度は、この一年間で培った知識と経験、さらには柔軟な思考を武器に、甲府昭和高校三十期生としての誇りをもって、今年度以上に新しいジャンルに挑戦していって欲しいと思っています。

最後になりましたが、保護者の皆様にはこの一年間、多大なるご理解とご協力をいただきまして心より感謝申し上げます。来年度も引き続き宜しくお願い致します。

学校評価

H25年度 生徒・保護者の評価結果について

学校評価の目的は、教職員が行う自己評価と、その自己評価をもとに学校評議員や地域住民等の方々が行う学校関係者評価の結果を受けて、学校の課題を明らかにし、次年度の学校運営に生かすことです。自己評価に向けて、1月に生徒と保護者の皆様を対象にアンケートを実施し、全保護者の95％にあたる791名から回答をいただきました。お忙しい中でのご協力に深く感謝いたします。ここでは、結果の概要と主な課題について報告させていただき、詳細については、教職員の自己評価と併せて、後日学校HPで公開させていただきます。

【生徒の評価結果について】

生徒のアンケートは、17項目について4択形式（①そう思う②どちらかというとそう思う③どちらかというとそうは思わない④そうは思わない）で、行いました。

まず、全17項目の回答番号別の平均値をみると、①34・1％②45・2％③14・9％④5・5％であり、①と②を合わせると概ね肯定的な回答が79％となり、昨年の76％に対して3ポイントの増加です。①と②を合わせて80％を超えた高い評価の項目は、昨年比3項目増の10項目でした。中でも「学習環境は整備されている」「規範意識が向上し基本的生活習慣がついた」「学校行事や部活動を通して主体的に行動できるようになった」「安全や健康、マナー向上に留意して生活することができている」「学校行事等により安全や防災に対する意識が高まった」「清掃活動をきちんと自発的に行った」「教養講演会は感性や教養を豊かにするために効果があった」の7項目は90％を超えました。

一方、①と②を合わせて60％に満たない低い評価の項目は、昨年度と同じく「学習活動や読書において、図書館を効果的に活用した」「ホームページはわかりやすく、魅力的である」という2項目でした。

【保護者の評価結果について】

保護者の方々には、20項目について4択形式（①そう思う②どちらともいえない③そうは思わない④わからない）で、アンケートを行いました。

まず、全20項目の回答番号別の平均値は、①53・2％②28・0％③5・7％④12・4％です。昨年度の平均値に対する増減は、①4・0増②0・4減③1・2減④2・6減となり、①の「そう思う」が4ポイント増え、②③④がいずれも減少し、肯定的評価が増加しています。昨年に比べて①の評価が高くなったのは15項目にわたり、特に70％を超えたのは、「学校は規範意識の向上、基本的生活習慣の確立に取り組んでいる」「学校は講演会や訓練等を通して、学校安全（交通安全や防災）に取り組んでいる」「生徒会活動が活発で、生徒のリーダー性、社会性が育っている」「わかりやすく、魅力的なホームページになっている」の4項目ありました。学校HPなどを改善し、よりわかりやすい情報発信に努めるなど、学校と家庭の連携をさらに高めていく必要を感じています。

以上の生徒・保護者の評価結果をもとに、皆様のお力添えを得ながら、より良い学校作りに努めてまいりますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。（文責　教頭　佐野　修）

紫映残照

昨年十一月二十二日に「創立三十周年記念式典」「タイムカプセル開封式」が行われました。

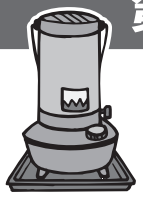
三十年目の節目に本校で働けることを大変うれしく、また誇りに思っております。式典に参加された来賓の中で創立に携わった方が次のように私に話してくれました。「とても素晴らしい式典でした。三十年前の理念が今も受け継がれていて、それを生徒が示してくれました。とてもうれしく、感動しました。」三十年の年月はとても長いものです。それでも受け継がれて今に続いている甲府昭和高校の教育の力を感じました。このような「継承」は、生徒の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様、教職員等、関係していた人たちの日頃のひたむきな姿勢が作り出したものではないでしょうか。

「タイムカプセル開封式」には、当時の生徒の皆さんが多数本校に駆けつけてくださいました。田畑同窓会長を中心に手紙を返却する作業が進みます。当時の先生を囲んで、笑い声が聞こえてきます。とても心温まる場面を見せてもらいました。

今回、三十年前の手紙の代わりに、私たちの手紙がタイムカプセルに入りました。開封は二十年後の二〇三三年十一月二十二日です。このとき私たちはどのようになっているのでしょうか？二十年後、この甲府昭和高校に集まることを楽しみにしています。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業していく皆さんにとって、甲府昭和高校は母校として心の中に、大切な存在として生き続けていくことでしょう。（教頭　小川弘一）

第28期卒業生卒業記念品



質問コーナー用ストーブ

2階の質問コーナーの場所に、ストーブを寄贈いたします。

第28期卒業生一同

創立三十周年記念

十一月二十二日の創立記念日の日に、創立三十周年記念式典を挙行しました。当日はコラニー文化ホールで、午前中に記念式典と脳科学者の茂木健一郎氏の記念講演会を行いました。

午後からは、創立時に一、二、三期生が書いた手紙が封入されているタイムカプセルを開封し、同時に現在の全校生徒が二十年後の自分に宛てた手紙を封入しました。